

〔1〕次の文章は、日本からヨーロッパに旅行した人たちの記録を対話形式にまとめたものの一部です。A～Fの登場人物の対話を読んで、それぞれの問に答えなさい。

- A いとこのBよ、あなたやDやE、それにFが多数の人々の歓迎とどよめきの中で、この有馬の城に入ってきたのを見て、われわれは言葉に言い表すことができないほどのうれしさと胸がいっぱいです。
- B Aよ、あなたが言うまでもなく、あなたやいとこのCが、私たちが祖国へ帰ってきたのをたいへん喜んでくれていることは良くわかっている。感謝している。
- C 喜びの理由は、Aが言ったことだけではない。もう一つ大切なことがある。あなた方がこの長い旅で見えてきたいろいろな珍しいことを早く聞こうと、じれったい思いをしているのだ。
- D そういうことなら、私としてもたいへんうれしい。物事を良く理解できる人なら、今度の8年半の旅で、あれだけ多くの事を知ったのですから、それを早く知りたいのは当然であると思う。
- C えっ、あなた方はここを出発してから8年半も過ぎたと言われるのか。
- D もちろんだとも。①1582年2月に長崎を出帆して、今年1590年7月ようやくこの港に船を着けたのだから。
- C そんなに長い間のことだとすると、旅行のはじめごろに起こったことなどほとんど忘れてしまって、あなた方の心には残っていないと思われるが……。
- E 時がたつにつれて過ぎたことは忘れていくものですが、われわれの経験した事は偉大であったので、つい最近のもののようによく焼き付けられて離れないくらいだ。
- F まったくEのいうとおりだ。印象のうすいものはすぐに忘れてしまうが、今回の経験はすべて偉大で重大なものばかりであったので、心に深くしみこみ、長く長く残ることだろう。
- A そのことこそ、何よりも私たちがあなた方から聞きたいと望んでいることなのです。それでは、あの長い旅が計画された理由から話を始めていただきたい。もうこれ以上わたしたちを待たせないでください。
- B 理由はたくさんあります。その中で一部のものを簡単に話してみると、ヨーロッパから巡察に来た人が、まず日本の風俗がヨーロッパのそれとはたいへん違うこと、つぎにおたがいの距離があまりにも離れていて、ヨーロッパ諸国の大きさ・立派さや、王者の權威・権力、その他の事が日本には伝えられていないこと、さらにこういう事柄をヨーロッパ人たちが話しても、われわれ日本人がまったく信用していないということを知ったからです。そこでその巡察使は②日本から数人の王、あるいは貴族をヨーロッパに送り、直接目で見たり、ときには手で触れさせ、日本人のヨーロッパに関して抱いていた多くの誤った考えを、改めさせることが必要だと思ったのです。

(『デ・サンデ天正使節記』より)

問1 下線部①について、これは歴史上「天正遣欧使節」とよばれています。またそのメンバーをみて「遣欧()使節」ともよばれています。()に当てはまる語句を答えなさい。

問2 下線部①の期間に、日本で起きたできごととして正しいものを、次の中から1つ選びなさい。

- ア 豊臣秀吉による朝鮮出兵が開始された。
- イ 織田信長が近畿地方を平定し安土城に移った。
- ウ 豊臣秀吉が天下を平定し将軍となった。
- エ 豊臣秀吉がバテレン追放令(キリスト教禁止令)を出した。

問3 下線部②について、「王」とは大名のことですが、一族の者を旅立たせたこの大名たちを他の大名と区別して特に何と呼びますか。

問4 17世紀の初め、仙台付近から上の旅行とは反対に、東回りでヨーロッパに行った人物を次の中から1人選びなさい。

- ア 大黒屋光太夫 イ 山田長政 ウ ジョン万次郎 エ 支倉常長

問5 この対話文の時代に関係が深いものを、次の中から1つ選びなさい。



問6 この対話に参加している人物のうち、4人は8年半の長期旅行を経験しました。かれらの最終目的地を都市名で答えなさい。

問7 この対話文中のヨーロッパから巡察に来た人は、日本に対してどのような思いをもっていたと考えられますか。次の中から1つ選びなさい。

- ア 日本をキリスト教の最適な布教地と思っていた。
- イ 日本をすぐれた労働力の供給地と思っていた。
- ウ 日本を豊富な金や真珠の供給地と思っていた。
- エ 日本を工業製品の輸出先と思っていた。

〔2〕次の文章を読み、それぞれの間に答えなさい。

今年は第二次世界大戦が終わってから60年がたった年です。みなさんは遠い昔^{むかし}のことに思うかもしれませんが、第二次世界大戦は、現在でも日本国憲法をはじめ、日本の政治や国際的な立場に大きな影響^{えいきやう}を与えています。あらためてこの戦争や憲法について考えるために、日本国憲法の内容をやさしく説明した、憲法が制定されたころの教科書の一部をあげます。

みなさんの中には、こんどの①戦争に、おとうさんやにいさんを送りだされた人も多いでしょう。ごぶじにおかえりになったのでしょうか。それともとうとうおかえりにならなかったのでしょうか。また、くうしゅうで、家やうちの人を、なくされた人も多いでしょう。いまやつと戦争はおわりました。二度とこんなおそろしい、かなしい思いをしたくないと思いませんか。こんな戦争をして、日本の国はどんな利益があったのでしょうか。何もありません。ただ、②おそろしい、かなしいことが、たくさんおこっただけではありません。戦争は人間をほろぼすことです。世の中のよいものをこわすことです。だから、こんどの戦争をしかけた国には、大きな責任があるといわなければなりません。③このまえの世界戦争のあとでも、もう戦争は二度とやるまいと、多くの国々ではいろいろ考えましたが、またこんな大戦争をおこしてしまったのは、まことに残念なことではありませんか。

そこでこんどの憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことをきめました。その一つは、兵隊も軍艦^{ぐんかん}も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさいもたないということです。④これからさき日本には、陸軍も海軍も空軍もないのです。これを（ A ）の放棄^{ほうき}といいます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ぼそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。

もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、じぶんのいいぶんをとおそうとしないということをきめたのです。おだやかにそうだんをして、きまりをつけようというのです。なぜならば、いくさをしかけることは、けっきょく、じぶんの国をほろぼすようなはめになるからです。また、戦争とまでゆかずとも、国の力で、相手をおどすようなことは、いっさいしないことにきめたのです。これを（ B ）の放棄^{ほうき}というのです。そうしてよその国となかよくして、世界中の国が、よい友だちになってくれるようにすれば、日本の国は、さかえてゆけるのです。

みなさん、あのおそろしい戦争が、二度とおこらないように、また戦争を二度とおこさないようにいたしましょう。

（『あたらしい憲法のはなし』）

問1 文中の（ A ）、（ B ）に当てはまる語句を、それぞれ漢字2文字で答えなさい。

問2 文中の下線部について、それぞれの間に答えなさい。

① 右の写真は、第二次世界大戦のころ、家族や知り合いの人が戦争に行く人を送り出しているようすです。この写真に関連した説明として、もっとも適切なものを、次の中から1つ選びなさい。

- ア みんなで集まって、無事で必ず生きて帰って来ようにと激励^{げきれい}するのがふつうでした。
- イ 国のために戦争に行くのだから、家族は悲しんだり泣いたりしてはならないとされていました。
- ウ 大切な家族が戦争に行かされることを悲しみ怒って、政府に抗議^{こうぎ}する人も少なくありませんでした。
- エ 戦争に行くのはすべて自分から志願した人たちだったので、帰れないかもしれないという覚悟^{かくご}はもっていました。

② この戦争で起こった「おそろしい、かなしいこと」について述べた次の文の中から、誤っているものを1つ選びなさい。

- ア 飛行機による無差別な爆撃^{ばくげき}が行われ、1945年3月10日の東京大空襲^{くうしゅう}では、約1万人の人が亡くなりました。
- イ 東南アジアや南方の島々に攻めこんだ日本軍は補給が続かず、多くの兵士が餓死^{がし}したり病死^{びじ}したりしました。
- ウ 沖縄では上陸したアメリカ軍との間で激しい戦闘^{せんとう}となり、学生をふくむ多くの民間人が犠牲^{ぎせい}となりました。
- エ 不足した労働力をおぎなうために、朝鮮や中国からたくさんの人をむりやり連れてきて働かせました。

③ 第一次世界大戦後に国際連盟がつくられ、さらに第二次世界大戦後には国際連合がつくられました。国際連合について述べた次の文中の（ a ）～（ c ）に、当てはまる語句・人物名を答えなさい。

- (1) 国際連合でも、武力によって紛争^{こんそう}を解決してはならないと定めています。ただし、他国から武力攻撃を受けたときや（ a ）の決議が認めた場合は別だと考えられています。しかし、（ a ）では（ b ）国のうち1国でも反対すると、決議は成立しません。
- (2) 国際連合で働く人で最も有名なのは、事務総長でしょう。2003年のイラク戦争やその後の復興のために力をつくしている事務総長は、アフリカのガーナ共和国出身の（ c ）さんです。

④ 現在、日本には自衛隊があります。今日の自衛隊の活動について述べた次の文中の（ a ）、（ b ）に、当てはまる語句・国名を答えなさい。

自衛隊は「日本の平和と独立を守る」ことが目的であると法律で定められていますが、1992年につくられた（ a ）協力法によって海外に派遣されるようになりました。さらに、2001年の法律によって（ b ）で活動するアメリカ軍などへの支援^{しえん}が行われるようになりました。

問3 日本国憲法の前文で述べられている内容に当てはまらないものを、次の中から1つ選びなさい。

- ア 国の政治は、国民の、国民による、国民のためのものでなければならない。
- イ 日本国民は、いずれの国も自国のことだけに専念して他の国のことを無視してはならない、と信じている。
- ウ 全世界の国民は恐怖や貧しさからまぬがれ、平和のうちに生きる権利を持っている。
- エ 日本国民は、自分の家族を尊重するとともに、国に何かあれば国のためにつくさなければならない。

都合により、写真
を掲載できません。

（今井清一『図説 昭和の歴史』6より）

〔3〕次の〔Ⅰ〕、〔Ⅱ〕の文章を読み、下の世界地図を参考にしてそれぞれの間に答えなさい。

〔Ⅰ〕

現在、世界には190余りの国があり、それぞれ国を象徴する国旗をもっています。世界の国々は風土や民族、文化が異なりますが、各国の国旗には、その特色がよく表されています。とくに(a)の影響は強く、国旗の色や図案をみただけで、その国の人たちがどんな(a)を信じているかを知ることができます。また国旗には地域的な特色もあります。(b)の多い北ヨーロッパ地域や(c)の多いアラブ地域、赤・黄・緑・黒などの色彩を使った(d)地域、(e)をとりいれた南アメリカ地域などです。これからの日本は、ますます世界の国々との交流がさかんになります。外国となかよくするためには、まず、相手の国々を正しく理解することが必要です。その国の成り立ちや歴史、(a)、そして国旗などを知ることが大切です。

(森重民造『世界の国旗』より)

問1 文中の(a)に当てはまる語句を漢字で答えなさい。

問2 文中の(b)～(e)に当てはまる語句を、次の中からそれぞれ1つずつ選びなさい。

ア 太陽 イ 月 ウ 十字 エ 三色 オ アフリカ カ 北アメリカ キ 南アジア

問3 次にあげる国旗はどこの国のものですか。図中①～⑥からそれぞれ1つずつ選びなさい。

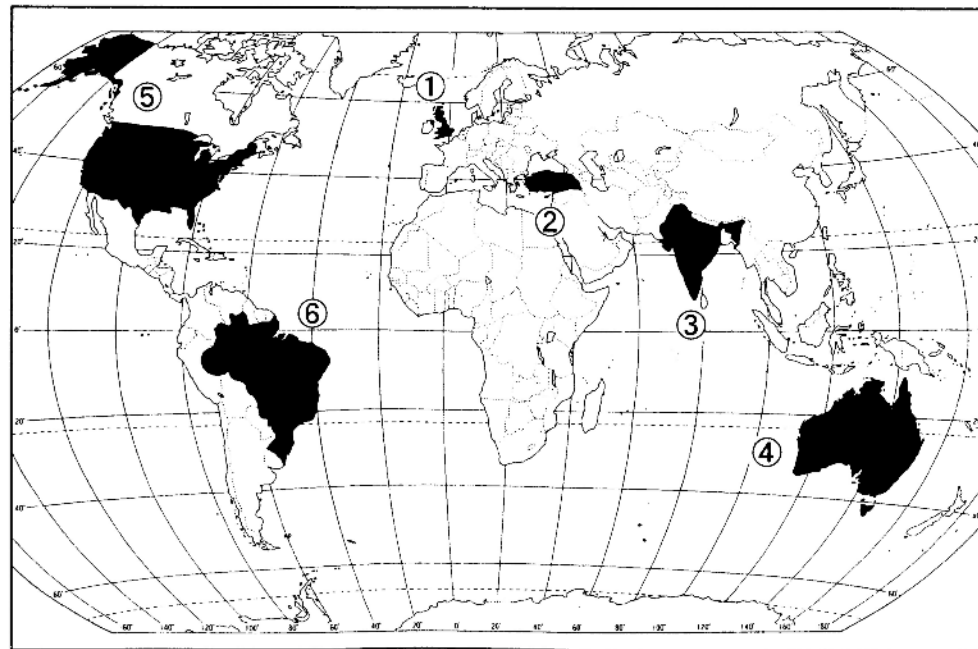
ア



イ



ウ



〔Ⅱ〕

クリスマスイブの夜9時頃、東京に住んでいる高田君は、海外に住んでいる3人の友人に電話をかけてみました。しかし、大隈君は午前中のクラブ活動に出かけたあとで、いませんでした。坪内君は昼食後に昼寝をしていたようで、機嫌がよくありませんでした。金子君には「こんな時間にどうしたの。こっちは午前4時だよ。」と怒られてしまいました。高田君は「せっかくのクリスマスイブなのに。」とがっかりしましたが、世界には時差があることをすっかり忘れていたようです。

問4 3人の友人はそれぞれどこに住んでいるのでしょうか。図中①～⑥からそれぞれ1つずつ選びなさい。

〔以下 余 白〕

